

# れんけい

題字：松尾信彦書



香川県立中央病院  
Kagawa prefectural central hospital

## ゲノム医療最前線 4

### ゲノム医療の幕開けを迎えて

遺伝子診療科  
ゲノム医療センター 平沢 晃

わが国のゲノム医療の定義は「個人のゲノム情報をはじめとした各種オミックス検査情報をもとにして、その人の体質や病状に適した医療を行うことを指します。具体的には、質と信頼性の担保されたゲノム検査結果等をはじめとした種々の医療情報を用いて**診断**を行い、最も有効な**治療**、**予防および発症予測**を国民に提供することを言う」とされています(ゲノム医療実現推進協議会報告書:平成30年8月)。すなわち、ゲノム医療ではひとりひとりの遺伝情報をもとに、病気の予防から治療までを行うことを目指しています。

今日では難病領域およびがん領域において、診療にゲノム医療の概念が導入されてきています。難病領域においては、診断目的の遺伝学的検査が隔年の診療報酬改定毎に保険適応となる種類が増えてきており、また早期介入・治療が可能になった疾患も多数あります。

がん領域においてはがんゲノム医療推進コンソーシアム懇談会が、がんゲノム医療の定義を、「**治療の最適化・予後予測・発症予防**をおこなう医療(未発症者も対象)」と定めています。「治療の最適化」については、令和元年6月のがん遺伝子パネル検査の保険収載を契機に道筋が開かれた一方で、これまで「未発症者も含めたがん予防」の実現が課題でした。

このような背景のもと、令和7年3月に「遺伝性腫瘍症候群に関する多遺伝子パネル検査(MGPT)の手引き2025年版」が発刊されました(図1)。

多遺伝子パネル検査(Multigene Panel Testing: MGPT)とは、多数の遺伝子を同時に診断する遺伝学的検査です。海外における遺伝性腫瘍症候群関連遺伝子の検索は2014年頃よりMGPTが主流となっていますが、わが国ではまだ保険収載されていません。

当院遺伝子診療科では、2018年より遺伝性腫瘍症候群家系を疑う人に対して、がんの未発症、発症に関わらずMGPTを自費診療として行っており、県民のゲノム情報に基づいたがん予防を目指しています。

遺伝性腫瘍症候群を疑う方、「私はがん家系?」と考える方がいらしたら、当院までご紹介ください。患者サポートセンター経由で通常の紹介と同様にご紹介を受け付けています。

### 遺伝性腫瘍症候群に関する多遺伝子パネル検査(MGPT)の手引き

2025年版



図1 遺伝性腫瘍症候群に関する多遺伝子パネル検査(MGPT)の手引き2025年版



平沢 晃 (ひらさわ あきら) ゲノム医療センターディレクター  
平成 7 (1995) 年 慶應義塾大学医学部卒業、慶應義塾大学病院研修医(産婦人科)  
平成 27 (2015) 年 慶應義塾大学医学部産婦人科 専任講師  
平成 30 (2018) 年 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻腫瘍制御学講座(臨床遺伝子医療学分野) 教授

### 遺伝子診療科

診療のお申し込みは、患者サポートセンターにお問い合わせください  
TEL (病院代表) 087-811-3333  
FAX (患者サポートセンター) 087-802-1160





# 尋常性乾癬の最新治療

皮膚科 医長 石井 美美



## 乾癬とは

乾癬とは表皮が疾患臓器である炎症性角化症であり、慢性の皮膚疾患です。尋常性乾癬は、銀白色の厚い鱗屑を伴う境界に明瞭な紅斑、紅色局面が、種々の身体の部位、肘、膝など機械的刺激を受けやすい部位に好発します。青壮年期に発症することが多く、病因は不明ですが、家族内発症も見られ、疾患感受性遺伝子の存在も示唆されています。爪の変形や関節症状を伴うこともあります。関節炎を伴う乾癬性関節炎、乾癬の皮疹が全身に及び紅皮症化した乾癬性紅皮症、上気道感染症発症に続発する滴状乾癬、急激な発熱や紅斑とともに小膿疱を伴う膿疱性乾癬などの病型があります。現在、日本の乾癬患者さんは約40~60万人（人口の約0.3~0.4%）と推計されています。欧米（人口の2~4%）に比べると少ないですが、近年は生活習慣の変化などの要因から、日本でも患者さんの数が増加しています。



尋常性乾癬の皮疹

乾癬では、肥満やメタボリックシンドロームの合併が多いことが知られており、特に重症の乾癬患者さんにおいては合併率が高いことが報告されています。

## 乾癬の治療

乾癬治療法には、外用療法、光線療法、内服療法、注射療法（生物学的製剤）の4種類があります。

### 外用療法

主にステロイド外用薬、活性型ビタミンD3外用薬の2種類が中心となります。他にステロイドと活性型ビタミンD3の合剤や2024年10月にAhR調節薬（TAMA）に分類されるタピナロフが発売されました。

### 光線療法

表皮肥厚の改善、炎症細胞浸潤抑制、細胞性免疫の抑制、痒みの抑制などの効果が知られる治療法です。乾癬において最も頻用されているのはナローバンドUVBであり、UVB領域の長い部分の波長（311~312nm）を選択的に照射し、治療効果が得られます。通院の負担などにもよりますが、外来では週に1~2回程度の頻度で照射する場合があります。



当院のNBUVB

### 内服療法

シクロスポリン、エトレチナート、アプレミラスト（ホスホジエステラーゼ4阻害薬）などが使用されます。

また、2022年にJAKファミリーに属する非受容体型チロシンキナーゼの1種であるTYK2を阻害するデュクアラバシニブが登場し、更に選択肢が増えています。

### 生物学的製剤

2010年に日本での乾癬に対する生物学的製剤が使用可能となりました。外用・内服療法でコントロール不十分な重症乾癬症例や乾癬性関節炎で不可逆的な関節破壊が予測される場合などは、生物学的製剤の使用が望ましいとされています。現在、TNF- $\alpha$ 阻害薬、IL12/23阻害薬、IL23阻害薬、IL17阻害薬など11種類の点滴・注射製剤があります。症状や投与間隔や合併症などを考慮して製剤を選択します。

乾癬で使用可能な生物学的製剤

薬剤名	標的	注射形態	用法
インフリキシマブ	TNF $\alpha$	静脈注射	5mg/kgを0, 2, 6週 以後8週間隔, 効果不十分の場合, 10mg/kg までの増量または4週間隔までの短縮可
アダリムマブ	TNF $\alpha$	皮下注射	初回は80mg, 以後40mgを2週間隔, 効果不十分の場合, 80mgに増量可
セルトリスマブ ベゴル	TNF $\alpha$	皮下注射	1回400mgを2週間隔, 症状安定後は, 200mgを2週間隔, 又は400mgを4週間隔で投与可
ウスデキヌマブ	IL-12/23p40	皮下注射	45mgを0, 4週 以後12週間隔, 効果不十分の場合, 90mgに増量可
セクキヌマブ	IL-17A	皮下注射	300mgを0, 1, 2, 3, 4週 以後4週間隔
イクセキズマブ	IL-17A	皮下注射	初回は160mg, 2~12週は80mgを2週間隔, 以後は80mgを4週間隔, 12週時点で効果不十分の場合, 2週間隔投与を継続可
プロダルマブ	IL-17受容体A	皮下注射	210mgを0, 1, 2週 以後2週間隔
ビメキズマブ	IL-17A/F	皮下注射	320mgを初回から16週までは4週間隔, 以降は8週間隔, 患者の状態に応じて16週以降も4週間隔で投与可
グセルクマブ	IL-23p19	皮下注射	100mgを0, 4週 以後8週間隔
リサンキズマブ	IL-23p19	皮下注射	150mgを0, 4週 以後12週間隔
チルドラキズマブ	IL-23p19	皮下注射	100mgを0, 4週 以後12週間隔

参考：日皮会誌：132（10）,2271-2296,2022（令和4）

### 治療を選択する要因

疾患要因	背景要因	治療要因
<ul style="list-style-type: none"> <li>乾癬の病型</li> <li>皮膚症状の程度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年齢、性別</li> <li>通院頻度や距離</li> <li>日常生活での支障</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>治療効果と安全性</li> <li>症状の改善</li> </ul>

参考：乾癬ネット

### 最後に

乾癬は多くの併存症を持つ慢性疾患と定義されており、肥満や生活習慣病とも関連しています。乾癬が重症でかつ肥満が高度であれば、慢性的な炎症が全身に及び、合併症による生命予後の低下につながると報告されています。治療選択肢は多く、患者さんそれぞれの症状や生活状況などに応じて、患者さんと一緒に治療を選択していくことが大切であると思います。

## 造血器腫瘍に対してがん遺伝子パネル検査が開始されます！

血液内科 診療科長 脇 正人

フィラデルフィア染色体をご存知ですか？9番染色体と22番染色体の一部が切れて入れ替わった異常な染色体で、慢性骨髄性白血病や急性リンパ芽球性白血病を引き起こします。9番染色体上のABL1遺伝子と22番染色体上のBCR遺伝子が融合し、この異常な融合遺伝子産物に対する阻害剤（チロシンキナーゼ阻害薬）が著効することが判明しました。

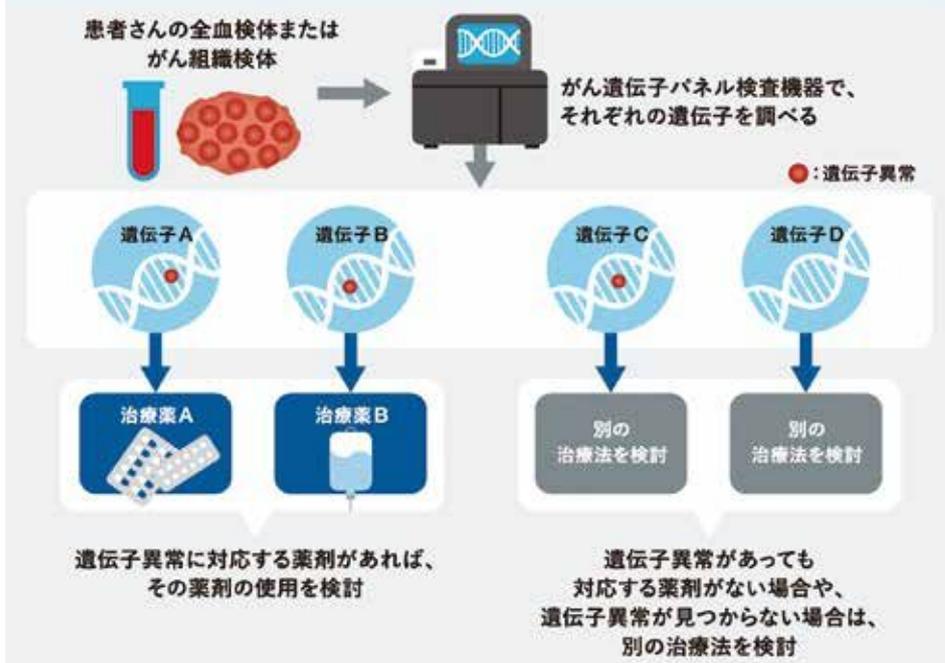
このBCR-ABL1融合遺伝子の発見は、異常を起こしている遺伝子を特定することが『診断』さらには『治療法選択』に直結し、その疾患の『予後予測』にも最も有効な予測因子となることが明確に示されたエポックメイキングな発見でした。他の造血器腫瘍、たとえば急性骨髄性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などでも様々な遺伝子の異常が関わっていることが明らかになってきており、その遺伝子を特定することがきわめて重要です。がん細胞の数百の遺伝子の変化を一度に調べることができる検査法が『がん遺伝子パネル検査』です。

固形がんではすでに2019年6月から2つの遺伝子検査パネルが保険承認され、『治療薬の適応決定のため』に実施されてきました。ただし、固形がんでの検査対象は「標準治療がない、または再発・転移等で標準治療が終了となった固形がん患者」であり、その使用は「ガイドライン

等に基づき化学療法の適応となる可能性が高いと主治医が判断した者」に限られています。

一方、造血器腫瘍では遺伝子の評価が「治療法選択」のみならず「診断」、「予後予測」にも重要であることが示されています。2025年3月に造血器腫瘍のがん遺伝子パネル検査が保険承認となり、急性白血病、骨髄異形成症候群、骨髄増殖性腫瘍（真性赤血球増加症、本態性血小板血症など）等は固形がんの場合とは異なり『初発時に』この検査が認められることとなりました。悪性リンパ腫や多発性骨髄腫では従来の方法での検索が行えない、または鑑別困難な場合に検査が認められます。これまでの検査とは比較にならないレベルの遺伝子評価が可能となることで、より詳細な診断と治療成績の改善をもたらすことが期待されています。

### がん遺伝子パネル検査で遺伝子異常に対応する薬剤を探るまでの流れ



ガーダントヘルスジャパン（株）より許諾を得て転載

## 退職者の挨拶

2014年7月に新築移転して間もない当院へ入職しました。

緩和ケア内科もペインクリニック科も当院では新しく始める部門であり、不安もありましたが、一緒に働いてくれる看護師さんや薬剤部、事務部門の担当の方々が集まり、どのような業務をしていくのか聞き取りをしていただき、対応を一緒に考えてくださったのがとても心強かったことを覚えています。

2床だけの緩和ケア病床から始まり、どうにか独立した緩和ケア病棟となり、軌道に乗ってきた矢先に、コロナ禍、そして病棟の休床が長引いた状態で辞めることになったことが残念で心残りです。しかし、緩和ケアチームや緩和ケア外来、ペインクリニック外来は継続されますので、今後の道を切り開いてくれる皆様に後を託したいと思います。

楽しく仕事をさせてくださった皆様、ありがとうございました。

緩和ケア内科  
前診療科長

仁熊 敬枝



みなさま、8年間お世話になりました。8年前に27年間お世話になった白鳥病院から異動になり、超急性期病院での業務は分からないことだらけではありますが、新経験が刺激的で、あっという間に過ぎ去ったように感じています。

私はリハビリテーション部のスタッフとして、常々多職種連携がとにかく大切と考えておりました。部内で一緒に働く仲間にも恵まれ、他部署の職員の方々や患者さん、家族の協力のもとで、微力ながらも使命を果たすために働かせていただけたと思っています。本当にありがとうございました。

これからも家族や友人に薦めたい病院として、ここに在り続けてくれることを心より願っております。



リハビリテーション部  
前技師長

廣瀬 珠美



### 第1回

## がんサロンを開催しました

がん相談支援センター師長 造田シオリ

がん看護専門看護師 太田亜紀子

がんサロンは、がん患者さんやご家族が体験を語り、聞き、交流することで、孤立感が和らぎ、気持ちを整理したり、心が和み、癒やされる場となることを目的としています。がん相談支援センターに相談に

来られた患者さんから「もっと気軽に体験者の方とお話できる場がほしい」と要望が寄せられ、ニーズに応えるために企画しました。皆さまが安心して参加できるように、県内のがん診療連携拠点病院にご協力いただき、がんサロンの見学、ピアサポーターを活用するための研修会に参加するなどして準備をしました。

今回、がん経験者であるピアサポーターの方にもご協力いただき、2025年2月6日(木)に当院で初めてのがんサロンを開催しました。当院の外来通院中の患者さんとそのご家族が参加されました。自身の体験や思いを語るなど、和やかな雰囲気が進み、参加者からは「また機会があったら参加したい」「同じ体験をしている方と話せてよかった」などのお声をいただきました。次回開催は6月上旬を予定しておりますので、ぜひご参加ください。このような機会を増やしていきたいと思っております。



### 医療セミナーの ご案内

日時 令和7年6月5日(木) 19:00～

講師 泌尿器科 診療科長 谷本 竜太

テーマ 「泌尿器科領域におけるロボット手術」



医療セミナーのページをご覧ください↑

## 認定・専門看護師コラム

## その12

## 「今、大地震が発生したら、どうする自分！」を合言葉に訓練実施中

救急看護認定看護師 平田 智子

当院は基幹災害拠点病院であり、今後予測される南海トラフ大地震に備え、災害対応に強い職員の育成と患者さんの安全を守るための取り組みを行っています。

2022年から救急看護認定看護師やDMAT隊員など看護部主導で、災害対策プロジェクトチームを立ち上げ、発災直後、発災1時間～8時間までの、看護師の行動手順（タイムライン）を作成しました。それをリンクさせ、「今、大地震が発生したら、どうする自分！」を合言葉に、職員一人ひとりが即座に行動できるよう、実践的な内容を重視した訓練を実施しています。この訓練では、患者さんの安全確保を最優先に、災害時の役割分担や連携の重要性を再確認し、職員は日常業務においても災害への意識を高めています。

災害時には病院単独での対応は難しく、地域全体での協力が不可欠です。平時より地域との繋がりを大切に、香川県全体の災害対応力の向上を目指して、連携体制も強化できるよう考えていきます。



シェイクアウト



最新の病棟マップを持って患者さんのもとへ



ペアになってトイレまで隔々確認

リハビリテーションのおハナシ その5  
「当院における心臓リハビリテーション」

リハビリテーション部 理学療法士 池田 早紀

心臓リハビリテーション(以下、心臓リハビリ)は、心筋梗塞や狭心症、心不全、心臓や血管の手術をした患者さんが、家庭生活や社会生活へ復帰し、再発や再入院を予防しつつ、生命予後改善を目的としたプログラムです。運動療法のみならず、食事や薬の管理、セルフケア、禁煙指導など、包括的な内容となっています。心臓や血管の病気は再発を繰り返しやすい、令和4年の死因順位では悪性新生物(がん)に次いで心疾患が第2位となっており、再発予防は重要な課題となっています。当院では主に5名の理学療法士と3名の作業療法士が心臓リハビリに携わっており、医師・看護師だけでなく薬剤師や管理栄養士、社会福祉士と密に連携を取りながら日々の業務に取り組んでいます。

希望者は外来でも心臓リハビリを継続しており、定期的に心肺運動負荷試験を行うことで適切な運動強度の再設定やトレーニング効果の評価も行っています。また、「香川県心臓リハビリテーションネットワーク」を利用して、患者さんのご自宅から近い心臓リハビリ施設を紹介させていただくこともあります。院内だけでなく地域とも協力しながら、患者さんが再入院することなく自分らしく生活できるよう支援をさせていただきます。



新連載

# 中央検査部だより

その1

中央検査部 部長 馬場 伸介

## 臨床検査とISO15189

臨床検査は体内で起こっている代謝の異常や組織の変化などを科学的に分析し、客観的な情報として診断や治療に役立てる検査です。医師は、これらの情報から疾患を科学的に診断することができます。検査によって重症度や合併症なども知ることができ、治療方針の決定や予後予測などが可能となります。科学的根拠に基づいた医療を実践する上で不可欠な手段であり、患者の病態把握や診断、治療に極めて重要です。

ISO15189（臨床検査室—品質と能力に関する特定要求事項、以下ISO）は臨床検査室の品質と能力に関する特定要求事項を提供するものとしてISOの技術専門委員会が作成した国際規格です。認定取得により「臨床検査室がマネジメントシステムを運営し、技術的に適格であり、技術的に妥当な結果を出す能力があること」が実証されます。つまり、臨床検査室の信頼性の向上や責任の明確化、さらには医療安全への貢献などが期待できます。

私たち中央検査部では、2021年3月にISOの認定を取得しました。その後、2024年9月に再審査を受審し、2025年4月からの更新が承認されました。中央検査部の基本理念である「私たちは、香川県の中核病院の検査部として優しく、信頼される医療者を目指し、質の高い検査情報を提供します」に基づいて、スタッフ一同、全ての利用者の皆様のご要望にお応えできるように努めてまいります。



臨床検査室  
認定証

認定番号 RML02520

機関名称 香川県立中央病院  
中央検査部

所在地 香川県高松市朝日町一丁目2番1号

責務は本協会の下記の基準に適合していることが認められましたので、ここに臨床検査室として認定します。

適用基準 ISO 15189 : 2022 (英和対訳版)

認定範囲 附属書による。

事業所 附属書による。

有効期限 2025年3月31日

改定日 2024年11月26日  
更新日 2025年4月1日  
初回認定日 2021年3月19日

公益財団法人  
日本適合性認定協会

理事長

三木 幸信

管理番号 : RML02520-20241126

## コラム おつうじにまつわるうんちく話

その30

消化器内科 部長

田中 盛富

食べてしまえばどちらでもよいのですが、キャベツは葉の部分、ブロッコリーは茎と蕾の部分を通通常私たちは食べています。これらはなんとなく想像できますが、ややこしいことに、じゃがいもは茎、さつまいもは根の部分を食べているそうです。じゃがいもを茎とは知らずに料理したり、さつまいもを根とは思わずにどなたかへプレゼントしても健康面や法律上の問題になることは通常ありませんが、葉か茎かによって法律に関わる植物があります。それは、センナです。

センナは黄色い花が咲くマメ科の植物です。その葉は昔から下剤として利用されてきました。センナは下剤の中でも刺激性下剤に分類されますが、センナに含まれるセンノシドという成分が大腸に到達して腸内細菌の作用を受け、初めて下剤としての効果を発揮します。

刺激性下剤は、連用すると腸への悪影響が指摘されているため、注意が必要です。

センナの葉は医薬品扱いなので健康食品には使用できませんが、茎は葉ほどの効果がないためか非医薬品扱いです。健康食品として販売されている便秘によさそうなお茶には、センナの茎が使用されていることもあります。実際にはセンナ類似の植物（センノシドが含まれるが非医薬品扱い）が用いられていることもあります。また、過去には医薬品のセンナの葉が混じって問題になったこともあったようです。ですので、健康食品だから安心安全というわけではなく、医薬品と同じでいろいろな問題を起すかもしれないので注意が必要です。ちなみに、健康食品は「～に効く」「～を予防する」というような病気への効能効果を謳うことは薬機法などの法律違反になるため、お通じによさそうなお茶などの健康食品には、便秘の改善を連想させるキャッチコピーが用いられています。長年「ぼっこり」「パンパン」おなかだったのが、翌朝の「するする」「もりもり」「どっさり」にびっくりして「すっきり」するという体験談のような絶妙な表現が用いられているようです。本当に健康によい良心的な健康食品もあるとは思いますが、食べてしまえばどちらでもよいというわけではないので、賢明な判断が必要でしょう。

## 医師の人事異動

### \* 転出 \*

令和7年1月31日付

小林 守 (眼科)

令和7年3月31日付

香川 朋 (消化器内科)  
小島 将司 (消化器内科)

森田 峻史 (腎臓・膠原病内科)  
大河 啓介 (循環器内科)  
岡 明宏 (循環器内科)  
須藤 雄也 (循環器内科)  
仁熊 敬枝 (緩和ケア内科)  
平井 貴士 (内科)  
松山 文美 (内科)  
市原 周治 (消化器・一般外科)  
信岡 大輔 (消化器・一般外科)  
木下 新作 (消化器・一般外科)  
中嶋 章裕 (呼吸器外科)  
馬場 倫弘 (呼吸器外科)  
佐治 万里江 (乳腺・内分泌外科)

加藤 秀太郎 (心臓血管外科)  
藪野 諭 (脳神経外科)  
栗山 修平 (形成外科)  
塩月 咲希 (形成外科)  
加集 萌 (小児科)  
宮本 貴和子 (小児科)  
佐々木 克己 (泌尿器科)  
向井 健人 (産婦人科)  
上枝 舜治 (眼科)  
杉本 啓介 (リハビリテーション科)  
増井 正典 (歯科・口腔外科)  
池田 遼太郎 (麻酔科)  
岩川 明日香 (麻酔科)

塩出 壮 (放射線科)  
岩本 康平 (救急科)  
三浦 耕司 (救急科)  
大西 祐以奈 (研修医)  
尾崎 いろは (研修医)  
斉藤 寛 (研修医)  
谷 和樹 (研修医)  
中村 望 (研修医)  
中村 竜馬 (研修医)  
萩野 和樹 (研修医)  
南木 航佑 (研修医)  
宮井 秀彬 (研修医)  
田原 知季 (歯科研修医)



広報誌「れんけい」  
バックナンバーが  
ご覧いただけます。

発行者 香川県立中央病院 高口 浩一  
編集 広報委員会

〒760-8557 高松市朝日町一丁目2番1号  
TEL (087)811-3333 FAX (087)802-1160

# 医師の人事異動 転入

R7年2月~4月

①出身大学 ②卒業年 ③趣味 ④抱負



2月1日付



こやま ゆうた  
**小山 雄太**  
(眼科)

- ①近畿大学
- ②平成24年
- ③バドミントン
- ④地域医療に貢献できるよう、精一杯頑張ります。

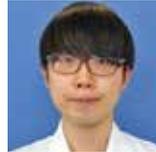
3月1日付



こにし はるか  
**小西 治子**  
(緩和ケア内科)

- ①山口大学
- ②平成18年
- ③社交ダンス、茶道
- ④地域の医療機関と協力して、求められる緩和ケアを提供できるように精進してまいります。

4月1日付▶▶▶



ばこし たかみつ  
**馬越 隆光**  
(総合診療科)

- ①香川大学
- ②令和3年
- ③ランニング
- ④患者さん一人一人に寄り添った診療を提供できる様努めます。よろしくお願ひします。



あかし こうせい  
**明石 耕生**  
(消化器内科)

- ①岡山大学
- ②平成31年
- ③ギター、弾き語り、バンド、NBA鑑賞
- ④皆様のお役に立てますよう、努力して参ります。



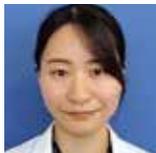
たくま けい  
**琢磨 慧**  
(肝臓内科)

- ①香川大学
- ②平成25年
- ③読書、ドライブ
- ④地域の皆様に貢献できるよう精一杯励みますので、何卒よろしくお願ひいたします。



まえかわ げんき  
**前川 玄輝**  
(呼吸器内科)

- ①香川大学
- ②令和6年
- ③旅行
- ④新しい職場で学びながら患者さんに寄り添い、信頼されるよう頑張ります。



まつもと かほ  
**松本 香穂**  
(血液内科)

- ①香川大学
- ②令和5年
- ③キャンプ
- ④患者さんに信頼していただけるような医師であれるよう、日々精進してまいります。よろしくお願ひします。



みやもと まさかず  
**宮本 真和**  
(循環器内科)

- ①宮崎大学
- ②平成16年
- ③旅行
- ④丁寧な診療を心がけ、地域医療に貢献できるよう頑張ります。よろしくお願ひ致します。



やまだ たかし  
**山田 隆史**  
(循環器内科)

- ①広島大学
- ②平成26年
- ③ゴルフ、旅行
- ④香川県の医療に貢献できるように頑張ります。



すぎう ありひろ  
**杉生 有広**  
(循環器内科)

- ①川崎医科大学
- ②令和2年
- ③釣り、ゴルフ
- ④精一杯頑張りますので、よろしくお願ひします。



なかじょう けん  
**中城 健**  
(内科)

- ①岡山大学
- ②令和3年
- ③テニス、ゴルフ
- ④患者さんに寄り添った診療を心掛けて頑張ります。



むこはら ふみあき  
**向原 史晃**  
(消化器・一般外科)

- ①香川大学
- ②平成27年
- ③ドライブ、自転車整備
- ④大学卒業後、約10年振りに香川県に戻って来ました。誠心誠意、診療に携わってまいります。



あきやま いちろう  
**秋山 一郎**  
(乳腺・内分泌外科)

- ①山形大学
- ②平成7年
- ③旅行
- ④自分や家族が罹りたいと思う診療を心掛けています。



いわど えいじ  
**岩戸 英仁**  
(脳神経外科)

- ①岡山大学
- ②平成10年
- ③山歩き
- ④安全・確実に丁寧な診療を心掛けます。



きのした まさひと  
**木下 雅人**  
(形成外科)

- ①岡山大学
- ②平成23年
- ③読書
- ④できるだけお断りせず、多くの患者様を診療できるよう努力致します。



あかし あかほ  
**明石 茜**  
(形成外科)

- ①愛媛大学
- ②平成31年
- ③美味しいご飯屋さん探し
- ④地域の皆様のお役に立てるように、日々の診療を頑張りますので、よろしくお願ひいたします。



にいた こういちろう  
**新田 弘一朗**  
(形成外科)

- ①富山大学
- ②令和2年
- ③散歩、筋トレ、カフェ巡り、旅行
- ④しっかり返書を書きます。



ほりい ゆな  
**堀井 由菜**  
(小児科)

- ①徳島大学
- ②令和4年
- ③おいしいものを食べる、散歩
- ④少しでも皆様のお役に立てるように精一杯頑張りますので、よろしくお願ひいたします。



かい せいじ  
**甲斐 誠二**  
(泌尿器科)

- ①滋賀医科大学
- ②平成16年
- ③テニス、スノーボード、トレイルランニング、メダカ
- ④16年ぶりの香川県赴任です。患者さんの気持ちを汲んだ医療で地域貢献したいと思ひます。



こだま じゅんいち  
**児玉 順一**  
(産婦人科)

- ①岡山大学
- ②昭和60年
- ③ランニング
- ④婦人科腫瘍、腹腔鏡、ロボット手術が専門です。低侵襲手術のさらなる強化を図っていきたく思ひます。

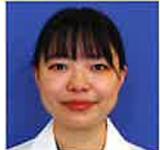
# 医師の人事異動 転入

R7年2月～4月

①出身大学 ②卒業年 ③趣味 ④抱負



4月1日付▶▶▶



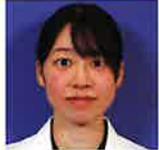
はまなか ふみな  
**濱中 史奈**  
(眼科)

- ①香川大学
- ②令和4年
- ③旅行
- ④地域医療に貢献できるよう精進してまいります。よろしくお願いたします。



いしだ さぐる  
**石田 優**  
(歯科・口腔外科)

- ①九州大学
- ②平成21年
- ③ジム、スキー
- ④地域医療に貢献できるように頑張ります。



にしやま はな  
**西山 波南**  
(麻酔科)

- ①香川大学
- ②令和2年
- ③ドラマ鑑賞
- ④安心安全な麻酔を心がけ、精進するとともに香川県の手術麻酔に貢献できるよう、精一杯頑張ります。



はまぐち ゆうと  
**濱口 侑永**  
(麻酔科)

- ①岡山大学
- ②令和4年
- ③体操、料理
- ④新しい施設で少し緊張していますが、早く慣れて色々なことを吸収できるよう頑張ります。



まるかわ ようへい  
**丸川 洋平**  
(放射線科)

- ①岡山大学
- ②平成21年
- ③インテリア
- ④画像診断を通じて、地域医療に貢献できればと思っております。よろしくお願致します。



やまかわ やすあき  
**山川 泰明**  
(救急科)

- ①岡山大学
- ②平成19年
- ③マラソン、トライアスロン
- ④今まで培ってきた知識・技術・体力を生かしてがんばります！



のむら あや  
**野村 綾**  
(救急科)

- ①自治医科大学
- ②令和2年
- ③ゴルフ、ランニング
- ④香川県の救急医療に貢献できるよう精進して参りますので、よろしくお願いたします。